



日笠栄子さん

憧れの地、スイスに降り立ちました。美しい！の一言。イヴェルドン城で子供達を教育してきたベスタロッツは当時としては珍しく人間皆平等で男女同じことを学ばせたとか。特にハート、ハンド、ヘッドの3日の教育方針は、詰めこみ、人をかき分けていく日本の教育ではハートもハンドも忘れ去られて荒廃してしまつたのではと考えさせられました。期待と不安のホームステイ、なかなか理解できない私達に和仏辞書を片手に一生懸命話して下さいましたが、日常会話のできない不自由さを身にしてみても味いました。この年で夢のような体験ができましたことに感謝致します。



中尾彰成さん

生徒達の生々と輝く瞳、一教室二十名程の複式で五才から十六才迄の義務教育である。

生徒の個性を伸ばすべく学び易い環境であると感じる。

低学年よりマナーを学びゴミの分別とリサイクル、調理法による材料の確認法、色、匂い等実際に手にして学んで、十六才では社会で自立出来る基礎教育を身につけ、実践している事は大変素晴らしい感動を覚えました。

国際的多種多様の生徒が互いに勉学に励み、競争意識の強い詰め込み教育ではなく、心豊かに社会で一人でも自立し役立つ人間教育の場であると強く感じました。



水野富子さん

ホームステイという事で少々不安だったが、挑戦する気持ちの継続をと思いスイス行きとなった。地上に電信柱がなくすっきりとした街並、石造りの旧市街が印象的だった。又交通機関も発達しており、近隣諸国への利便性も図られていた。ベスタロッツの教育方針も小学校教育に反映されており将来を担う子供達の表情がいきいきと輝いていた。ホストファミリーとの

出合いは不安を抱かせるものではなく、この歳の私にエネルギーを与えてくれ活動的にさせてくれた。特にナイスボディーの水着を借りてプールへ行き四十分程レッスンを受けた事、何事にも前向きに取り組む事、苦手意識を持たない事等、身を持って体験する事が出来た。残りの人生、体力の許す限りチャレンジしていきたいと思う。



北山智枝さん

スイスのきれいな街並みや、壮大なアルプスの山々は強く印象に残っています。スイスへの旅行で、コミュニケーションをする上で最も大切なことは、言葉が通じることでなく、相手のことをもっと知りたい、自分のことをもっとと相手に知ってもらいたいという気持ちだと強く感じました。スイスでの六日間はあるという間でしたが、何よりも私が関わる事ができた人々が暖かく私に接してくださったことをとてもうれしく思っています。また、このようにスイスへ行き、いろいろな事

を学ぶ機会を与えられたことにとても感謝しています。



矢内州子さん

絵葉書を見るような中世の風貌漂うイヴェルドン城の前に、鏡野町にもあるベスタロッツの銅像が建っていた。彼の足跡を辿りながら旅をするうちに、教育者であり、学校経営者であり、思想家でもある多彩な顔を知った。小学校を訪問し子供達との交流は、竹とんぼと折り紙で日本の玩具を解かしてもらおうと、言葉の通じない中で身振り手振りや一生懸命。共に折った鶴に歓声が上ががり、心が通いあった瞬間でした。ホームステイでは、文化の違いに戸惑うこともあったが、貴重な体験ができました。四月には使節団が鏡野町を訪問と聞く。鏡野町の紹介が楽しみです。



政影知子さん

スイスは自然と人間が程

イヴェルドン市から訪問団来日！！

町の友好都市であるイヴェルドン・レ・バン市から訪問団が来日することになりました。

期間：平成18年4月13日(木)～15日(土)
2泊3日

来町人数：約23名

来町にあたりホームステイ家庭を募集します。

詳しくは、後日広報でお知らせします。

お問い合わせ：企画課(産資・ハンクー)

良く美しく融合した所で、建造物は昔のままの意匠を凝らした物が多く残り、何百年も経ったであろう立派な木が数多く残る非常に素晴らしい景観の国でした。教会でみたシャガールの聖書をモチーフにしたステンドグラスやパイプオルガンの音色が強く印象に残りました。交通は車の量、信号機を極力少なくして(郊外に車を停めて、公共の乗り物を利用する事を勧めていたり、車の規制が周辺国より厳しくて規定以上は入国禁止だとか)環境問題に早くから取り組んでいて自然と一緒に暮らして生きていくという感じの国でした。